

アンやローダに對しちやドウする事も出来やしない。本當に妙な世の中になつたものだ。昔は何でも在の儘でサツパリとして居たのに、今ぢや皆んなが變な氣心になつて了つてる。あのチンダル教授がベルファストで演説をなすつてからと云ふものは、何一つ眞まことともの事はありやしない。(註。チンダル教授は有名な理學者で、一八七四年ベルファストに於けるブリチッシュ協會の集會で、大膽なる唯物論を發表した人。)

タナア　そうですサ。世の中は昔に比べると随分複雑になつて來たもんです。ですが、一體あなたは僕にどうしろと云ふんです？。

ホワイトフィールド夫人　さあ、それを今お話するんですがね。勿論あなたは私の否應に係はらず、アンと結婚する事になるんでせう。

タナア(びっくりして)　それぢや丸て何ですネ、僕は自分の否應に係はらず、今にもアンと結婚させられると云ふ様な譯ですネ。

ホワイトフィールド夫人(物靜かに)　まあ、チヨットそんなものですよ。あなたの知つての通り、何のことだつて一度彼かれが斯うと思ひこんだら、迎むかも逃のがしやしませんからね。ですけれど、私を悪いと思つて下さるなよ。私のお頼みは只それ丈なの。テツイが今云ひましたがね、私が斷つてあなたにアンと結婚させようとして居ると、アンは云つてるそうですよ。それで、可愛そうに、テツイはあの通り失望して了つてるの。テツイは元々自分でアンに思ひこんで居るのだから。尤もテツイの眼に見えてるアンは、そりやア恐ろしい御大層なものですガね。何ア

に私がそんなことするものですか。アンはしよつちゆう、私が思ひもそめない事を、お母さんの望みだからと云つちや、他の人にそう思はせるんですよ。だけど、テサイにやそんなこと話しても駄目です。云へば云ふだけ私を悪く思ふ。そこになると、あなたは善く分つてるのだから、若しかアンと結婚なすつても、私に罪を着せちや厭ですよ。

タナア(力を込めて) 僕はアンと結婚するなんと云ふ積りは是ッぽつちもありません。

ホワイトフィールド夫人(老翁に) でもアンはテサイよりかあなたに似合つてますよ。あなたなら随分アンの相手に成れる。私アンに好い相手を持たせて見たいのさ。

タナア どうせ男は女に叶やしない。火搔棒でも持つて、釘底の靴でも穿いて掛らない限りや。それでも勝つとは極りやしない。兎にかく僕ア逆もアンに對して火搔棒なんぞ振廻すことは出来ないんだから、全く奴隷になるより外ありやしない。

ホワイトフィールド夫人 いゝえ、アンはあなたを怖がつてる。何しろあなたはアンの化の皮を剥ぐのだから、私を手玉に取る様な譯に行きやしない。

タナア 若しか僕がアンの云ふ様な道德言葉でアンの正體を人に話さうものなら、人はキツト僕の事を殘忍無情な奴だと云ふてせう。

第一アンは随分本當でない事を云ひます。

ホワイトフィールド夫人　アンが天使の様な女でないと云ふ人のあるのは私も嬉しい。

タナア　要するにです、——若し僕が妻に向つて夫の發する様な激語を以て云ふならば、——アンは嘘つきです。現に、テヴィと結婚する氣なんぞ少しも無いにせよ、あゝして首つたけテヴィを迷はせて了つた點から云ふと、彼は全く男たらしです。世上一般の定義に依れば、男たらしと云ふ言葉は、男子の肉情を挑發して、而もそれに満足を與へる意志のない女を意味するんだから。又現に今度は、あなたまで味方に引張り込んで、僕を其の祭壇の犠牲にして、其の代りには只僕に彼を嘘つきと面罵する丈の満足を與ふるに過ぎないと云ふ點から見れば、

亦實に横暴極まる女と謂ふべきです。勿論、彼は女をイヂめる様に男をイヂめる譯に行かない。そこで彼は其の容色の魔力を常不斷無遠慮に利用して、我が思ふままに男を動かさうとして居る。そこになるとモウ殆んど尋常の言葉を以て名づけ様のない程の女です。

ホワイトフィールド夫人（おだやかに誠める）　だけど、どうせ人間に完全を望む譯に行きやしません。

タナア　僕は完全を望むんぢやないんです。只アンの仕方が氣に入らない。勿論そりや、今云つた様な嘘つきだとか横暴だとか、男たらしだとか云ふ事は、埒もない道徳上の責言葉で、恐らく何人にも適用される言葉です。我々は皆嘘を云ふ。我々は皆出来るだけ横暴に振舞

ふ。我々は皆譽れを求めて、そして其實を盡す積りは少しも無い。我々は皆自己の他人に對する引力から出来るだけ多くの利子を擧げようとする。それでアンが若しそれを承認するんなら、僕は何も争やしない。けれどもアンはそれを承認しない。アンが若し子供を持つて、其の子供が嘘をついたら、アンは好い事にしてそれを引つばたいて喜ぶに違ひない。又若しか他の女が僕に變な眼使でもしたら、アンは決してそれを一時の出来心として許さないに相違ない。アンは詰り自分だけは好勝手な真似をして、其くせ他人には世間並の道德のオキテに従はせようと云ふんです。要するに僕はあの憎むべき偽善に堪へられないんです。それ丈が僕の閉口する所です。

ホワイトフィールド夫人(我が思ふ通りを斯く雄辯に説き出だされたのを聞いて、ツイ氣がせい／＼して) そりやア彼子は偽善者ですよ。全くですよ。ねえ、そうでせう。

タナア。ぢや、なぜあなたは私をアンと結婚させようとなさるんです?

ホワイトフィールド夫人(苦惱らしく) そら又!。私が罪を着せられるのだね。さつきテヴィの話聞くまで、私そんなことなんぞ思ひもそめなかつた。けども、そりやねえ、私テヴィは大好き。云はゞ子の様に思つてるんですからねえ。だから私本當のことを云へば、テヴィを踏みにじらせて、氣の毒な目に遭はせたく無いと思ふのですよ。

タナア　そして私の方はドウなつても構はないと云ふんですね。
ホワイトフィールド夫人　あら、あなたは又違ひますよ。あなたは自分てどうにても出来る人だもの。あなたなら何とかアンを仕こなすてせうさ。それにアンだつて、いづれ誰かと結婚しなくちやならないのだから。

タナア　そらら！生の本能が出て来た。あなたはアンを憎んでる。それで、矢張何とかして結婚だけはさせなきやならんと思つてる。

ホワイトフィールド夫人（氣を悪くして立上り）　あなた私が生みの娘を憎むと思ふの？。幾ら娘の缺點を挙げたからつて、私がそれほど横しまで、不自然な者と思はれるんですか。

タナア（皮肉に）　それぢやあなたアンを愛しても出てなさる？。

ホワイトフィールド夫人　そりやそうですさ。あなた随分妙なことを云ふのね。誰が自分の肉身を愛しないで居られますか。

タナア　成程、そう云へば綺麗で宜しい。然し僕としては、斯ういふ疑ひを持つてるんですがねえ。血族の間には自然に一種の反感が横たはつて居るんぢや無いかと。（立上る。）

ホワイトフィールド夫人　まあジャック、滅多にそんなことを云ふものぢやありません。それから、私があるたとこんなお話をした事はア
ンに云はないで下さい。私は只、あなたとテツイとに思違ひをしられ
たくないのです。私獨り馬鹿になつて、何でも斯でも皆んな塗りつけ

られるのは厭だから。

タナア(鄭重に) 承知しました。

ホワイトフイルド夫人(不満足の體にて) だけど、それで私却つて困つた事になつて了ひましたよ。テヴィは、私がアンを崇拜しないと云つて怒つてるのももの。だから今、アンがあなたと結婚するのだと聞かされて見りや、誠に結構とても云ふより外はありやしない。

タナア どうも有がたう。

ホワイトフイルド夫人 オヤ、あなた私の云ふことを妙に取つて、私の心にもない事を思つたりしちや厭ですよ。私は片手打の事をしたくないのだから。

アン別荘より出て来る。直ぐそれに續いて乗車服を着けたヴァイオレットも出て来る。

アン(母の右手に來り、薄氣味がわるいほどしとやかに) お母さん、ジャックとお二人で大層面白そうなお話で御座いましたのねえ。そこら中に聞えましたよ。

ホワイトフイルド夫人(恐を抱き) お前聞いたの？

タナア 御心配にや及びません。何アに、アンは只——そら、今もアンの其の流儀をお話したんぢやありませんか。一言だつて聞いてやしないんですよ。

ホワイトフイルド夫人(強くなつて) なに彼子が聞かうと聞くまい

と構やしない。私にや私の好きな事を云ふ権利があるから。

ヴァイオレット(此時芝原に降り来り、夫人とタナアとの間に出る。) 私

お暇乞に参りました。是から新婚旅行に出かけますから。

ホワイトフィールド夫人(泣きだして) まあヴァイオレット、そんな事

を！。御婚禮の式もしないで、宴会もしないで、そして衣裳も何も無いで。

ヴァイオレット(子供をあやす様に) なに直ぐ歸つて來ますの。

ホワイトフィールド夫人 亞米利加などに連れて行かれちゃ厭で

すよ。それ丈はねえ、どうぞよしてお呉れな。

ヴァイオレット(斷然と) それは仕ない積りですの。どうぞ泣かな

いで下さいな。私今は一寸ホテルまで行くんですから。

ホワイトフィールド夫人 だつて其の仕度で、荷物まで持つて行くん

だもの、私どうしたつて長い別れの様な——(こゝで一度喉がつかまって、そ

して又話しだす。) お前が私の子だつたらねえ！。

ヴァイオレット(夫人をなだめすかしながら) ほんとにねえ、私もソツ

思ひますの。だけどアンが焼餅やきますよ。

ホワイトフィールド夫人 アンは私の事なんぞ是れッばかりも構つ

て呉れやしない。

アン あらお母さん！。サアもう泣くのはやめて下さいな。ヴァ

イオレットはそんな女々しいこと嫌ひなんぢやありませんか。(夫人や

うやく眼を拭いて泣きやむ。

ヴァイオレット 左様なら、ジャック。

タナア 左様なら、ヴァイオレット。

ヴァイオレット あなたも早く結婚する方が可いんですよ。そりやそんなに誤解もされないで済むし。

タナア (悪くすねて) あゝ、僕ア多分今日の中に結婚するかも知れないよ。皆んながモウちゃんとしてそれに極めてるぢやないか。

ヴァイオレット まあ何とても勝手になさい。(ホワイトフィールド夫人の脊に手を掛けて) 私と一緒にホテルまで行きませう。自働車に乗ると気分が善くなりますよ。サア内に行つて上蔽を取つて來ませ

う。(夫人を別荘の方に連れて行く。)

ホワイトフィールド夫人 (花園を登つて行きながら) お前が行つて了つたら、後ぢや内はモウ私とアンと二人きり、私一體どうして可いか分りやしない。それにアンはいつもかやも男ばかり相手にして居るし。

お前の御亭主だつて、私の様なお婆さんの面倒を見て下さりそうにも思はれないし。いゝえ駄目ですよ。御親切は嬉しいけれど、世間の手前もあるからね。—— (夫人は獨で喋つて居る。ヴァイオレットの姿はモウ隠れて見えぬ。)

アンは、ヴァイオレットの折よき忠言を思ひめぐらしながら、タナアの側に寄り、足の爪先から頭まで暫く面白げに打見やり、とら／＼自分の意見を持出す。

アン　　ヴァイオレットの云ふ通りだわ。あなた結婚しなくちやイケませんよ。

タナア(勃然として)　　アン。僕アあなたと結婚はしないよ。分つたか。僕ア断じて断じて断じてあなたと結婚はしない。

アン(平然として)　　誰アれもあなたに結婚して呉れと頼みやしない。誰アれも誰アれも誰アれも。それで可いでせう。

タナア　　そうだ、誰も頼みやしない。けれども皆がモウ極つた事の様にしてる。其氣が一面に漂つてる。我々が二人出會ふと、他の者は皆んな譯もない口實を拵へて、二人きりを取残して了ふ。ラムスデンも今ではモウ僕に向つて苦い顔はしない。彼れの眼は光を帯びて居

る。丸でモウ教會に行つて、あなたを僕に呉れるといふ時でゝもあるかの様に。テヴァイは又僕の事をあなたのお母さんに話して、そして僕に喜びを云つたりする。ストレカアの如きは又既にあなたを未來の主人の様に扱つてる。彼奴だよ、初めて其事を僕に云つて聞かせたのは。

アン　　それであなた逃げだしたの？

タナア　　そうさ。するとあの色氣達の山賊に邪魔をされて、丸で道樂者の學生が追手にかまつた様なザマさ。

アン　　だけど、あなたそんなに結婚が厭なら仕なくたつて可いわ。

(アンはタナアに脊を向けて歩み去り、悠々として椅子に腰かける。)

タナア(其後を追いながら) 凡そ人間として首を絞められたいと云ふ者はありやしない。けれども世間には随分何等の反抗も試みず、せめて牧師を睨みつけてやる位の事は出来る筈なのに、黙つて首を絞められる者もある。我々は元來、自分の意志を遂行してゐるんぢやなくて、此の世界の意志を遂行してゐるんだ。それで僕はツイこんな恐ろしい事を考へる。あなたに夫を持たせるといふのが世界意志であるが爲に、それで僕が結婚させられるんぢやないかと。

アン そりや私、いつかは夫を持つてせうさ。

タナア 然しナゼ僕に限るんだらう、此の澤山の人間の中で。僕に取つちやア結婚は變節だ。精神の尊嚴の冒瀆だ。男子の徳性の破壊

だ。生來の特權の賣却だ。恥辱の降伏だ、不面目の城渡しだ、敗虜の承認だ。そうすれば僕はモウ、全く御用濟の廢物となるんだ。未來のある男子から過去ばかりの人間に變ずるんだ。其時世の一切の妻帶者は、其の卑猥なる眼光を以て、又こゝに一人の新なる捕虜がやつて來て、彼等と共に其の醜辱を分つ事を喜ぶんだ。そうして世の青年は又、僕がとら／＼賣物にされた事を嘲笑するんだ。殊に世の婦人に取つては、是まで一個の謎として、又一個の望みとして見られた僕が、今はモウ只或一人の私有物となるんだ。即ち僕はそれでモウ疵物になるんだ。高々人間の古手になるんだ。

アン それぢやねえ、あなたの妻も頭巾でも冠つて、あなたの顔の立

つ様に成るべく汚くしたら可いてせう、丁度私のおばさんの様に。

タナア それぢや丸でワナに獲物が掛つたから、モウ餌は入らないと云ふんで早速それを取り棄てると同じ事て、女の勝利を一層むきだしにする様なもんだ。

アン まあそれにしたつて可いちやなくて。美しい物も珍らしい間こそ好いてせうが、自分の家に三日ばかりも置いて見たら、誰がそれを眺め暮すもんぢやない。今家にあるあの書だつて、初めてお父さんが買つて来た時にや、私も美しいと思つただけけれど、此頃ぢやモウ何年と云ふもの、一目だつて見た事もありやしない。だから私の顔かたちなんぞドウだつて可いてせう。あなたはモウ慣れきつて居るんだ

もの。云はゞステツキ臺くらゐな者てせう。

タナア 嘘だ、嘘だ。あなたは人の血を吸ふ鬼だ。

アン お世辭屋。なぜあなたはそんなこと云つて私を迷はせようとなさるの、私と結婚しないと云ふ癖に。

タナア 生の力だよ。僕は生の力に攫まれて居るんだ。

アン 私にや少つとも分らないわ、何の事だか。

タナア あなたはなぜテヅイと結婚しない。テヅイはあれほど望んで居るのに。あなたは自分の餌食の苦むのを見なくちや満足が出来ないんか。

アン(タナアの方に顔を振向け、秘密の奥に彼を導くとも云ふべき振にて)

テヴィは一生涯結婚しやしないの。あんな風な人は結婚の出来ない
ものですよ。あなたにはそれが分らなくて？。

タナア えゝ？あの婦人崇拜の男が！。此の自然界を戀の二聲曲
に對するロマンチックな光景とより見ないと云ふあの男が！男氣が
あつて實があつて優しくて正直なあのテヴィが！それが一生結婚が
出来ないと言ふのか！。一體あの男は途中でチョット美しい目の女
に出會ふと直ぐにのぼせ上ると云ふ様に出来上つてるんぢやないか。
アン そりや私も知つてるわ。だけどねえジャックそんな人がい
つても失戀ばかりしてさあの獨身者の行く下宿屋か何かに住みこん
でさ、そのかみさんに可愛がられたりしてさ、そうしてとう／＼結婚

する時がないものよ。あなたの様な人は直き結婚する時が来るのよ。

タナア (額を叩いて) 全くだ！其の通りだ！。僕は今日まで其の結
婚と云ふ奴に睨みつけられて來たんだ。そして少つとも氣が付かず
に居たんだ。

アン そりや女だつて同じ事なの。詩人風の氣質は全く好い氣質
ですさ、罪が無くてね、空想的でね。だけど、そこが即ち老嬢オールドメイの氣質なの
よ。

タナア 仇花だね。生の力はそんな處を避けて行つちまふ。

アン あなたが生の方で云ふのは、そんな事なの。ぢや本當だわ。

タナア おや、あなたはテヴィのと何とも思つてないの？。

アン(若しかテツイが聞える處に居やしないと、振返つてそれを見定めて)
いいえ。(日本語では此の場合、ハレもエいと訳す事也) 舞臺

タナア ぢや僕の事は思つてるのかい？

アン(靜かに椅子より立上り、指を振つて彼を制しながら) アラあなた、お

行儀よくしなきやイケませんよ。

タナア 實に怪しからん、仕様のない女だなア。悪魔！

アン 巨蟒！象！

タナア 偽善者！

アン(柔しくなつて) だつて私、未來の夫の爲にそうしなきやならな

いんだもの。

タナア 僕の爲にだつて？(急に又言ひ直して) いや其の夫の爲にだつて？

アン(言直しを受けつけず) そうだわ、あなたの爲だわ。あなたは其の偽善者と結婚するのが可いんですよ。女が偽善者で無くて御覽なさい。改良服でも着て飛びあるいて、散々人に馬鹿にされて、煮え湯を浴せられる様な目に遭ひますよ。そうすりや其の御亭主だつて、矢張り其中に引込まれて、しよつちゆう面倒な、うるさい事ばかりあるでせう。それよりかあなた、モット安心の出来る奥さんの方が善かなくて？

タナア いかん、斷じていかん。煮え湯は革命家の要素だ。人間を研くのは牛乳のバケツを研くと同じで、煮え湯をブツかけなくちや駄

目だ。

アン 冷たい水も役に立つてよ。衛生に好いわ。

タナア(絶望の體) イヤ、あなたは利口だ。イザとなると生の力があなたに有らゆる才智を與へる。宜しい、僕も偽善家になる。お父さんの遺言書は僕をあなたの後見人には指定したが、あなたの婿には指定してない。僕は只忠實に其の委托の任を果さう。

アン(人を迷はす様な低い聲で) お父さんがあの遺言を作る前に、後見人には誰が好いかつて私に聞いたの。私あなたが好いと云つたの。

タナア それぢや、あの遺言はあなたの意志だ。ワナは最初から掛けてあつたんだ。

アン(あらゆる魔力を集中して) そうよ、最初からよ、——子供の時からよ、——生の力が二人にワナを掛けたのよ。

タナア 何でもいゝ、僕はあなたと結婚しやしない。僕はあなたと結婚しやしない。

アン いけませんよ、仕なさやイケませんよ。

タナア 駄目だ、駄目だ、駄目だ、そんなこと。

アン 可いんですよ、可いんですよ、可いんですよ、それが。

タナア いけない。

アン(殆んど息も絶々たぎになつて掻きくどく) 可いんですよう。後あとで後悔したつて仕様が無いんだから。可いんですよう。

タナア(此時忽ち過去の記憶の響に打たれて) 何時だつたつけなア、昔し一度此の通りの事があつた。今二人で夢を見てるんぢや無いか知らん。

アン(急に力が脱けて了つて、モウ其の苦しみを隠しもせぬ。) いゝえ、ちやんと醒めてるわ。そしてあなたは今厭だと云つた。それで事は濟んだんてす。

タナア(無情らしく) 成アる程。

アン あゝ私は考へ違ひをしてた。あなたは私を愛してやしないんだ。

タナア(兩手をアンの體に掛けて) それは嘘だ。僕はあなたを愛して

る、生の力が僕の心を蕩かしてゐる。僕はあなたの體を抱くと、全世界を此の手の中に攫んだ様な気がする。けれども僕は僕の自由の爲に、僕の名譽の爲に、僕の分つ可らざる此の自我の爲に闘つて居るんだ。

アン でも、あなたの幸福はそんなもの皆んなと掛けあふてせう。

タナア ぢやあなたは、自由も名譽も自我も、幸福の爲に賣つて了ふ積りか。

アン 私に取つちや、結婚は幸福ばかりぢやありません。或は死てあるかも知れません。

タナア(唸るが如く) あゝ其聲に體が締めつけられる様だ。あなたは一體、僕の心の中の何物を攫んでるんだ？。女に母の心が存する様に、

僕にも父の心が在るんだらうか。

アン 可いんですか、あなた。こんな事して居る處に誰か人でも來ようものなら、あなた私と結婚しなくちやなりませんよ。

タナア 若し今我々二人が斷崖絶壁の上に立つてるとするならば僕はシツカリあなたを抱いて飛込んで了ふ。

アン(此の興奮に疲れはて、今は早や息も絶々に) もう放して下さいな、ジャック。私随分氣張つて遣つただけど、——こんなに永く掛らうとは思はなかつたんだもの。放して下さい、私モウ堪へられない。

タナア 僕だつて堪へられない。今に二人とも死んぢまふかも知れない。

アン え、構やしないわ。モウ力も何も脱けちやつた。何だつて構やしない。あゝ氣が遠くなる様だ。

此時、ヴァイオレットとオクタヴィアとが、ホワイトフィールド夫人を連れて別荘より出て來る。夫人は乗車服を着て居る。同時に、マロインとラムスデンとが、マンドザとストレカアとを伴うて小門より入り來る。タナアは極りわるげにアンの體から手を放す。アンは片手をふらくさせながら額にあてる。

マロイン おや、あの御婦人はどうかなすつたと見える。

ラムスデン 一體どうした事だな？。

ヴァイオレット(アンとタナアとの間に走り行き) 氣分でも悪くて？。

アン(よろめきなながら一生懸命に) 私今ジャックと結婚の約束した。

(と云ひ終つて氣絶する。ヴァイオレットは其側に跪ひざまつき、アンの手を摩擦する。タナアは其の向ふ側に走り寄つてアンの體を持上げようとする。オクテヴァイアスはヴァイオレットの手傳をしようとしたが、どうして宜いやら分らずにマゴくして居る。其中、ホワイトフィールド夫人は急いで別荘に走りこむ。オクテヴァイアス、マローン、ラムスデン、皆アンの側に群がって、俯向いて何か手傳つて居る。ストレカアは冷然としてアンの足の方に行く、マンドザはアンの頭の方に行く、二人とも悠々と落ちつき拂つて。)

ストレカア さあ皆さん、大勢側に寄るのは善くありません。新鮮な空氣が必要ですよ。出来るだけ多くの空氣が必要ですよ。サアどうぞ皆さん。(マローンとラムスデンとはストレカアに押しつけられて、静かにアンの側を立去り、芝原を過ぎて花園の方に行く。オクテヴァイアスも、連も自分の役に立たぬ事に氣がついて、そちらに一緒になる。ストレカアは皆を押し

やりながら、ちよつと立止つてタナアに注意する。) 頭を持上げちやいけませんや、タナアさん。頭を低くして置きや血が自然に戻つて來まさら。マンドザ 全くですよ、タナアさん。シエラ山の空氣にお任せなさい。(と殊勝らしく柵木の所に退く。)

タナア(立上りながら) ヘンリイ、君の生理學の智識に従ふよ。(と、芝原の片隅に退く。するとオクテヴァイアスが直ぐにそこに降りて來る。)

オクテヴァイアス(タナアの手を握りて小聲に) ジャック、お目出たう。タナア(是も小聲に) 僕から求めたんぢやない。僕がワナに掛つたんだよ。(芝原を過ぎて花園の方に行く。オクテヴァイアスはアツケに取られて後に残る。)

人と超人

マンドザ(ホワイトフィールド夫人がブランデイのコップを持つて別荘から出て来たのを遮りて) 奥さん、それは何です。(と、其コップを取る。)

ホワイトフィールド夫人 ブランデイです。

マンドザ そんなもの飲ますが一番悪いです。是は私が(と、ブランデイを飲みほし) 奥さん、シエラ山の空氣にお任せなさい。

皆々暫しアンの事を忘れてマンドザの顔を見る。

アン(ザアイオレットの首に手を掛け、其耳に口を寄せて) ザアイオレット

ト、私が氣絶した時、ジャックが何か云つて?。

ザアイオレット いゝえ。

アン あゝあゝ! (如何にも安心したといふ溜息をついて、又グッタリとなる。)

ホワイトフィールド夫人 あゝ、又氣絶した!。

皆々再びアンの側に駈け寄らうとすると、マンドザが、イケナイといふ身振で以てそれを押し止める。

アン(仰向のまゝ) そうぢやなくてよ。私嬉しくて仕様がなない。

タナア(決心の體にて急にアンの側に歩み寄り、ザアイオレットの持つて居たアンの手を引つたくり、其脉を見る。) 何アんだ、脉はドン／＼打つてる。サア起きた／＼。馬鹿々々しい!。起きるんだよ。(手ツ取りばやくアンを引き起す。)

アン えゝ、モウ氣が確しつかりしたわ。だけどあなた、危く私を殺して了ふ所だつたわ。

マロリン 随分亂暴な求婚者ぢやありませんか。然しホワイトフイルド嬢、そういふのが一番好いですぜ。タナアさん、お目出たう。どうぞ是からお二人で私共の御殿ア、イに繁々お遊びに入らしつて戴きたいもんです。

アン 有がたう。(マロリンの側を通つてオクテヰイアスの前に行き) リキ・チキ・テヰイ、私を祝つて頂戴な。(テヰイだけに) 私今一度あなたを泣かせて見たい。

オクテヰイアス(確乎として) もう泣きやしない。僕はあなたの幸福を幸福とする。そしてどんな事があらうと堅くあなたを信ずる。ラムスデン(マロリンとタナアとの間に來り) タナア君、君は仕合せな

人だ。私は羨ましいよ。

マンドザ(ヰアイオレットとタナアとの間に進み出て) 凡そ世の中に二つの悲劇があります。一つは本望を遂げざる事、一つは本望を遂ぐる事、私のと君のが即ちそれです。

タナア マンドザ君、僕にや本望なんぞありやしな。ラムスデン君、僕を仕合せなんと手輕に仰しやるが、君は只見物人だ。僕は當タの本入です。だから僕の方が善く知つてる。おい、アン、もうテヰイを誘惑するのはやめて、こつちに來なさい。

アン(其の言葉に従ひ) 馬鹿なこと仰いよ。(と、タナアの差し出した腕に倚る。)

タナア(前の話を續けて)僕は眞面目に云ふ、僕は幸福な人ではない。アンは幸福らしい顔をして居る。然しそれは凱旋である、成功である、勝利である。こんな者は決して幸福とは謂はれない。只強者が其の幸福を賣つた代價である。今日我々二人の爲したる事は、實に幸福を拒否し、自由を拒否し、安寧を拒否し、殊に最も甚だしきは、彼の不可知なる未來に於けるロマンチックの可能を拒否し、之に代ふるに家庭と眷屬との係累を以てしたのみである。故に僕は、人が此の機會に乗じて、僕を犠牲にして酔ッぱらつたり、譯も分らない演説をしたり、下らない駄洒落を云つたりする事を欲しないのである。故に我々は只我々自身に興味に従つて家庭の設備をする積りである。殊に僕は此際豫め

斷つて置く、旅行用の時計の七八個、衣類入の鞆の四つ五つ、サラダの鉢、肉切ナイフ、魚切庖刀、特製モロッコ皮のテニソン詩集、其他諸君が今我々の上に積みあげようとして居る所の一切の物品は、僕は直ちに之を賣り飛ばして了ふ。そして其の賣上金を以て『革命家必携』の施本の費用に充てる。結婚は英國に歸着してより三日の後、特別結婚法に従ひ、區の戸籍吏の役場に於いて、僕の法律顧問及び其の書記立會の上、之を執行する事とする。そして立會人も當事者も、總て通常服を着する事とする。そして――

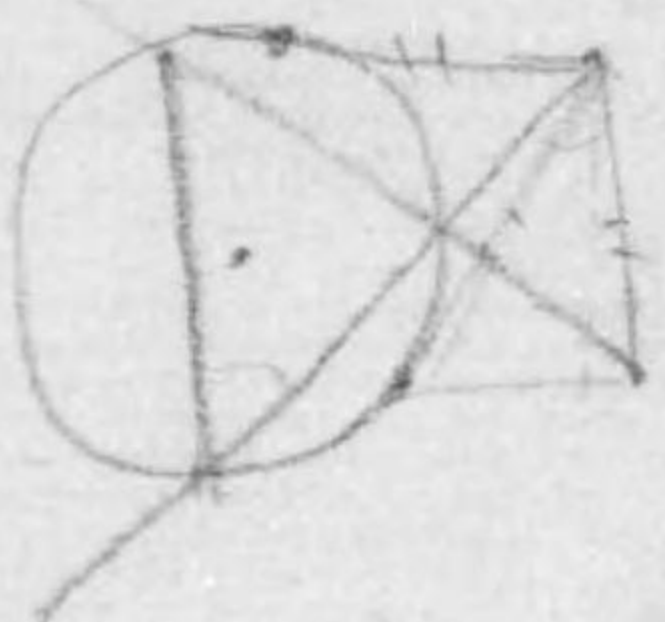
ザアイオレット(強き自信の態度を以て) ジャック、あなたは實に野蠻です。ね。

アン(さも嬉しげな得意顔でタナアを見上げ、其の腕をナブリながら) ヴァ
イオレットなんぞに構はないで、サアもつとお喋りをなさいな。
タナア お喋り!

皆々ドツと笑ひ出す。

(完)

革命家必携



革命家必携

THE REVOLUTIONIST'S HANDBOOK

安逸なる上流階級の一員 ジョン・タナア著

序

凡そ革命家とは現存制度を撤廢して他の制度を試みんと欲する者である。

英國の憲法は革命的である。佛蘭西革命は一群の統治者を顛覆して、之に代ふるに、利害を異にし、意見を異にする他の一群の統治者を以てした。英國民は總選舉に依つて、七年に一回、之を行ふ事が出来る。

革命家必携

故に革命は英國憲法の規定である。従つて英國人が革命を主張するには、何等の言譯も入らぬ筈である。

凡そ何人も、各その理解する事物に就いては、革命家である。例へば、或職業に精通した人は、必ずそれに對して懷疑家である。従つて革命家である。

眞の宗教家は必ず皆異端者である。従つて亦革命家である。

總て社會に傑出する人は、皆革命家として身を立てた者である。三十歳以下の人にして、現社會の制度に就いて多少の智識を有しながら、猶革命家ならざる者は、眞に劣弱者である。

然るに、今日に至るまで、革命は未だ曾て壓制の重荷を輕めた事がな

い。只それを他人の肩に載せかへた丈である。

本文

(譯者云。此の本文は十章に分れて約四五十頁に亘つて居るが、こゝには只其の要領を摘録するに止めておく。)

(一)

十八世紀の自然教信者は、若し「神」が無いならば之を發明せねばならぬと云つた。其神は即ち棚から落ちる牡丹餅の如き神であつた。そこで十九世紀は、そんな神の存在せぬ事を斷定して、「人」が自ら一切の事業を爲さねばならぬと考へた。従來行はれたる制度の變化の如きは、何の役にも立たぬものである。たゞ山林檜が食用の林檎となり、

野生の狼が、家畜の犬となる、其の變化だけが有効である。此の場合には「人」が神に代つて、自己の目的を以て自然を制したのである。そして狼に對して行はれた事が、人間に對しても行はるべき筈である。

故に「超人」を求むるの叫はニイチエに始まつたのではない。又ニイチエばかりと共に終るものではない。然し「超人」とは如何なる種類の人間を謂ふ乎といふ問題が出る。吾人は食用林檎を求め、けれども、超林檎を求めはしない。只超人々々と云つても仕方がない。願はくば諸君が要する超人の仕様書を示せといふ議論が出る。

然し諺にも云ふ通り、フリン餅の味は食つて見ねば分らぬ。超人の味も生れて見ねば分らぬ。故に超人の組成分の明細書の出来るのを待つ

ても仕方がない、只試験と過誤とを重ねて居る中に、自然に超人の産出法を發明するのである。

(二)

故に若し將來「超人」が生ずるものとすれば、それは「人」の思慮考量に依つて「女」の腹から生れるものでなければならぬ。

人間の飼養法は鶏や豚の飼養法とは違ふ。「人」の最も重要な點は、其の未だ自ら理解せざる部分に存する。故に人の嗜好(即ち自然の聲)が最も有力なる指導となる。

財産制度と結婚制度とは、平等を破壊して兩性淘汰を妨ぐるが故に「超人」の進化の敵である。

(三)

英國人が悉くクロムエルとなり、羅馬人が悉くシーザアとなり、獨逸人が悉くルイテル、フランス人が悉くルイテとなる迄は、世界の進歩は駄目である。それは丁度、埃及のチエオプス王の建てたピラミットの爲に、ブリクストンの別荘が改善されぬと同じである。

故に吾人は超人の民主制を必要とする。超人民主制の産出が、吾人の今日に於いて切望する、唯一の變化である。

(四)

世人は不幸にして進歩の幻想に捕はれて居るが、今日の儘の状態では、人間の身心に此上進歩の望はない。

(五)

吾人の唯一の望は進化に在る。吾人は人に代ふるに超人を以てせねばならぬ。

ラスキンやカアライルの如き人々は、只説法せんが爲に説法するのである。それは丁度、セント・フランシスが鳥に向つて説法し、セント・アンソニーが魚に向つて説法したのと同じである。徒らにユトピアを夢みる詩人等は、其の理想を實現せんが爲には、只「人」がそれを欲し、さへすればよいと思つて居る。然し「人」が「超人」になるまでは、決して眞にそれを欲しないのである。

故に結局は、人間の淘汰的飼養法(即ち人間進化法)の公共設備が必要

となるのである。但し其の方法に就いては、此の一小冊子の能く盡し得る所にあらず。敢て世の志ある男女の研鑽に待つ。

革命家座右銘

(譯者云。此篇は革命家必携の附録の様な體裁になつて居るが、是も半分ばかり摘録しておく。)

▲黄金律

己の欲する所之を人に施すこと勿れ。
人の趣味は我が趣味と異なるべければなり。

黄金律なきを以て黄金律と爲せ。

▲偶像崇拜

政治は偶像崇拜の組織である。

革命家座右銘

野蠻人は木石の偶像に禮拜し、文明人は血肉の偶像に禮拜す。

▲教育

最も善く教育されたる子供は、在の儘に其の父母を見た者である。偽善は親たる者の第一の義務に非ず。

行ひ得る者は行ふ。行ひ得ざる者は之を人に教ふ。活動は知識に達する唯一の道である。

馬鹿にあらざれば純粹の専門家となること能はず。

▲結婚

結婚の根本職分は種の繼續に在り。其の附隨職分は愛情の満足に在り。人工避妊は結婚の根本職分を棄て、附隨職分のみを遂行せし

むる者である。

現制度の下に於ける一夫多妻は、他のそれが爲に獨身を餘儀なくせらるゝ者の爲に破壊せらる。母的本能は婦人をして、第三流の男子を獨占するよりも、寧ろ第一流の男子の十分の一を有せんことを望むものである。

▲犯罪と刑罰

投獄は死刑と同じく取返しのかかぬ者である。

犯罪者は法律の手に依りて死するにあらず。他人の手に依りて死する者なり。

之を小賣にすれば犯罪となり、之を卸賣にすれば刑法となる。

人、虎を殺せば之を狩獵と云ひ、虎人を殺せば之を兇暴と云ふ。既に牢獄あり、何人が之に投ぜらるゝかは大なる問題に非ず。

▲肩書

中才は其の肩書に依つて現はれ、大才は其の肩書を邪魔にし、庸才は其の肩書を汚す。

▲婢僕

婢僕を人間として扱ふほどなら、婢僕を置くには及ばぬ。主従の關係は、權威を濫用するを憚らぬ主人と、信任を濫用するを憚らぬ婢僕との爲にのみ有利である。

人間は、寄生物の多きことを以て己の富とする、唯一の動物なり。

貴女紳士は犬小屋に友達を持つ事は出来るけれど、召使部屋に友達を持つ事は出来ぬ。

▲子供を打つ事

怒に乗じて子供を打つは、よし傷を與ふるとも可なり。冷靜にして之を打つは斷じて許す可らず。

若し自己の快樂の爲に子供を打たば、率直に其の目的を語れ。然らば其害少し。獵人は、鶏を盗むことを戒めんが爲に狐を殺すとは言はざるなり。

▲公平

公平とは見物人の道德にして、當事者の道德に非ず。

▲偉大

偉大とは劣弱の感の一種に外ならず。

天に在つては、天使も別段の者に非ず。

偉人とは神の俗名なり。二者共に只吾人の達し得ざる所に在る者たることを示す。

若し偉人が我々に理解せられるならば、我々はそれを殺すてあらう。我々の崇拜する神が眼前に現はれた時には、我々はそれを磔にかけた。十一は數學者に取りて單に一個の數である。然し十本の指より以上を數へ得ざる野蠻人に取りては、測り知る可らざる大數である。愚昧なる國民間に在つては、天才の人が神となる。衆人之を崇拜し

て、一人も其心を成就せず。

▲美と幸福

美人と共に生涯の幸福を得んと欲する者は、絶えず美酒を口中に含まんと欲するに似たり。

醜惡悲慘の世に在つては、最大の富人と雖も、醜惡と悲慘との外を買ふこと能はず。

▲紳士と愛國

近代の紳士は必然に其國の敵なり。彼等は戦争の時と雖も自ら起つて其國を防衛せず。只其國利を掠取する自己の權利が外國人の手に移らんことを防止するのみ。斯くの如き戰鬥者を愛國者と謂ひ得

べくんば、魚骨を争ふ二疋の犬も亦愛獸者と稱し得べし。

▲理性

合理の人は自己を世界に順應せしむ。不合理の人は強ひて世界を自己に順應せしめんことを勉む。

理性に聽従する者は亡ぶべし。理性を支配せざる者は理性の爲に奴隸とせらるべければなり。

▲時間の復讐

獸類が人間の親類たる事がダアキンに依つて立證せられたる時、多年吾人の蔑視したる獸類が吾人に復讐をしたのである。

紳士閥が盜賊たる事がマルクスに依つて確言せられたる時、盜賊は

吾人に復讐したのである。

▲家庭の女

家庭は娘の牢獄にして、女の工場なり。

▲名譽

生は衆人を平均し、死は大人を現はす。

▲文明

文明とは腐朽したる材料を以て社會を建設する時に生じたる一の疾病なり。

近代文明を讚美する者は、常に文明を以て蒸氣汽罐及び電信機と同一視す。

▲一言一句

四十歳以上の人は皆悪漢なり。

エホバが地球を作りし時、之を善しと見たまへりと云ふ。今見たら何と云ふだらう。

ツオルゴツスはマツキンレイを殺して彼を英雄にした。アメリカ合衆國は同じ方法に依つてツオルゴツスを英雄にした。

初め愛する者に對して自己を犠牲とするならば、遂には自己を犠牲としたる其人を憎悪するに至るべし。

私が倫敦で見た人と超人

私が倫敦で見た『人と超人』

え、堺さん！

私は四五年此かた、文字を金に換へて生活をして行く階級の方々を先生と呼ぶ事に極めて居ります。而してあなたは文を賣つて金を取る金看板をかけてる人で居らつしやるから、私の從來の習慣からいふと、是非先生と云つて上げなければならぬ方です。併し、あなたは社會の階級などいふものを撤去しようといふえらい事を考へて居らした方です。いろ／＼な社會に都合のよい人類に便宜な事を、みな破壊して行かうといふこわい方です。幾年か前にそんな事を表看板

私が倫敦で見た『人と超人』

にして、氣の弱い人間を嚇かして居らしつたといふ噂でしたから、今でもそんな事の夢位は見えて居らつしやるてせう。左様いふ方に向つて先生呼はりをして、忌いにあてつけじみた事をするのは、何だか御氣の毒な様に思はれます。だから、私は今特別に「堺さん」と呼んで見ました。が、どうもそれでは私自身が落着かない様な氣がします。文を賣つて飯を食つてる階級の方を先生と呼ばないと、何だか自分が町人でない様な氣がしていけません。私は呉服物や、雑貨や、玩弄物を賣つて金も受けをして居る商事會社の一使用人として、文學とか藝術とかいふ事を遊ばしてゐらつしやる方々を先生と申上げないと、如何どもその釣合がまづい様に思はれてなりません。だから、改めて今度は――

え、堺先生！

と申上げます。併し、先生、御安心下さいまし。あなたの様な新らしい事を考へて居らつしやる方に對しては、私だつて舊いコンヴェンションのつき纏つて居る意味で、先生呼はりを致してゐるのではございせん。たつた一つの you といふ字であらはせる二人稱を、あなたさま、「あなた」君、「おめへ」てめへ、いろ／＼に云ひ現はす事の出来る日本語では、「先生」といふ一つの言にも、幾多の意味を含ませたつて構はなからうと思ひます。

そこで愈よ御注文の「人と超人」のお話にとりかゝりませう。

一體私はシヨウ先生の芝居が大好きです。脚本で讀むと、大阪役者

私が倫敦で見た「人と超人」

が江戸つ子の酔ばらひをして居る様な、あの悪く長い、いやに氣取つたトガキが、如何にも邪魔になつてうんざりしてしまひますが、上手な役者が目だけへ見せてくれる御芝居は實に面白かつたと思ひます。私は倫敦に居る間、コート座の代り目には屹度出かけました。シヨウ先生のものを取つかへ引かへ見せてくれるのが嬉しいので、グランヰキール・バーカア夫婦にも懇意になりました。スロイン・スクエアへは隔週に一回づゝは必らず出かけました。而してシヨウ先生の御作を七つも見る事が出来ました。が、其中で私は此 *Man and Superman* が一番好きでした。バーカアのシヨウ先生摸しのタンナア先生は三度も見にまゐりました。鼻から抜ける亞米利加音のロレィヌのヤンキー・タ

ンナアも見に行きました。例のシャヰキオ・ソクラテツク・シオンがマチチーで出された時には、恰度一緒に倫敦でとぐるを巻いて居た市川左團次君をせき立て、見物に出かけました。私はこれ程あの御芝居が好きなのです。

先生もあれを翻譯しようといふ位ですから、お嫌ひではないでせう。そんなら一體、どんな處がお好きなのです。

タンナア先生は變てこらいな社會主義者です。オクタヰキアス先生はタンナア先生の所謂詩人的社會主義者です。ストレーカア君はこれもタンナア先生の所謂科學的社會主義者です。而してタンナア先生は『革命黨員必携』と『革命黨員格言』の著者です。先生の様な方

にはこれだけでも此脚本がお好きになる筈です。愚案ずるに先生はこの點で、此脚本の翻譯を御やりになつたのでせう。

ところが私の此御芝居が好きなのは、そんなおつくりな理窟からではありません。簡単にオクタヴキアス先生が、女に惚れてひよろ／＼して居る處に興味をもつたのです。あのヴァイタリテ一の旺盛な牝獅子の口の中へ首をつゝこんで居ながら、所謂ローマンテック・ラヴの鼻歌をうたつて居る詩人先生の心意氣が嬉しかつたからです。女が無ければダンテは『デヰキナ・コメデア』が書けず、新興劇團は忽ち滅亡してしまふと思つて居る——例のその、それ、純な、生一本な——心地が面白かつたからです。私はオクタヴキアス先生が、云ひ知れぬ悲哀の

象徴見たやうな顔を見たゞけて、此御芝居がすつかり氣に入つてしまつたのです。

併し先生、これだけの事て此御芝居が好きになつたなど、云つたら、此『哲學と喜劇』に對して、例の理解なきものとして、また先生方から御叱を蒙るかも知れません。と、云つて、私がドナ・ジャアナ(フアナ)と發音しないうちが價值てすかね)の現代的標本が如何したの、ライフ・フォー・スが如斯の創造の盲目的狂躁此譯語で何を意味するか、分つた方は手を御擧げなさい)がどうすべつたの、異性の牽引力がどうて、男性に對する女性の征服はかう仕まつたのといふ事は、ちと柄不相應な事でございます。それに先生だつて私からそんな間拔な話を聞かうとは思つ

て居らつしやいますまい、御手紙によつても先生からの御注文は、私が倫敦で此御芝居を拜見した時の話をしろといふ事でございます。だから私はさういふ骨つぼい理窟はヒューチカア先生に御願ひ致しました。ヘンダーソン先生に御一任致しました。マリオ・ボルサノ先生の『今日の英國劇壇』に裏書致します。アーチャア先生、ウォークレ先生、いや、シヨウ先生御自身の例のシユウバア・プレフェニスにポツ／＼として、そこどころはまあ好い加減に願つて置きませう。

先生！ 實は、私も此御芝居を日本でやつて見たいと思ひまして、一昨年の秋、其雛案を私の奉公致して居ります店の機關雜誌に二號ばかりつゞけて出した事があります。其中氣が向かないので中絶致しま

したが、其時こんな太平樂を其『はしがき』にした事がございます。ちよつと御覽置きを願ひませう。

ジ・ビー・エスが傑作に向つて、また例の轉作を試みる。相手かはれど主

かはらず。洵にはや御息災、のんき千萬なものなり。鼻高きが故にたつとからず、廣告用の御園白粉を厚く塗つたからとて、急に外國人になり濟すわけにも行かず。話も、柄行も日本人で通用するものなら、まあ其方が早わかりがするといふものなり。

シヨウ先生が直門といふ様な噂さへ——日本では——あるグランヅキル・バアカアが、此脚本を演ずる時にすら、例のシヨウ先生獨得の長い／＼、御自慢の『トがき』を無視して、舞臺の飾付、登場人物の着付、大分原本と違ふ。況して海の彼方の亞米利加で大評判のロバート・ロレーヌが演出と來ると作者がフロックコートと書いてある處へ、紺セルの背廣に柔らかいカラ

私が倫敦で見た『人と超人』

アで現はれる。城渡の由良之助が五段目の勘平で出た様な姿なり。さればにや、本文にも同じ様な手心は加へられる。作者がわざわざ書いた『革命黨員必携』といふ名文が『人間以上』といふ脚本に變へられてしまふ。作者が皮肉な空想から生み出した三幕目の夢の場が、むざ／＼と喰はれてしまふ。原作を其のまゝに読んで、何時もありや／＼と喝采するものと思つて居る日本の文學者には、コト座の表を通つただけでも憤死してしまひさうな始末なり。

そこで轉作の原料には、此舞臺の上の脚本を重につかつたり。勿論先入主となり、自分にはバアカア演出法が、ロレーヌのそれより面白く、鮮かにも思はれたれば、大部分はそれに據る。馬鹿長い、一人天狗の例の序文と氣障で皮肉でしちくどい例の『トがき』とは、舞臺の上では見た事なき故一切御あづかりとする。見物の當時、日本なら如斯もあらうかと思つた感じをそのまゝに書き現したもののなり。

昔は轉宅三百といへり。何とか移轉會社が出来ても、轉宅にはいくらかづゝ物がこわれたり、紛失したりするが常なり。況して英國の貴重品、荷造りのすべも碌々知らぬ拙者などに持還られては、疵のつく位は是非ない事なり。二一轉作三百位は値の下るは當然なり。

何も三年前の古疵を、今更御吹聴にも及ばない譯てございますが、幸ひに先生の見事な御翻譯が出た御庇蔭で、私は誤譯問題で器量をさげる憂目ものがれたといふもの、此位の御愛嬌は何でもないのてでございます。

そこで、唯今御目通りへ引用致した様なわけて、私は自分の翻案の原文へ、ちよい／＼當時の感じを書いて置きました。それを二三ヶ所御覽に入れて見たいと存じます。

先づ序幕の最初にこんな事を書き入れました。

原書には舞臺が、ポートランド・プレースとある。倫敦で一番繁華なピカデリーから、寶石商や洋服屋など一番贅澤な商人の住んでるリーゼント町を通つて、眞直にリーゼント公園の植物園(先頃日英協會で東伏見宮殿下を御招待して園遊會をやつた處)へ出ようといふ通り。其通りは倫敦中での廣い町で、附近には古い旅館もあれば、倫敦屈指の大音楽堂もある。支那公使館もあれば、醫師町も近い。公園に近く、銀座にも近いといふところから、ちよつと内幸町邊に見立て、見よう。その邊でのしもたや暮し、原作では座敷の様子、掃除萬端行届いて裝飾も華奢ならず、少くとも女の召仕三四人はあるとあるが、日本なら書生、執事も三四人は置いてあらうといふ生活の人、金があつて、學問があつて、立派な紳士以上、取締役會長、市參事會員、市參事會議長本年取つて六十四歳、少年時代からの實利主義で自由貿易主義者、おまけにダーウインの進化論の崇拜者、自分では

餘程進んだ思想家で、自己の抱負は堂々として發表するには、からぬ社會改良家のつもり。

座敷にはジョン・ブライトとハアバート・スペンサアの大理石の柱像を飾つて置くといふ代物、日本にもかういふ人は澤山ありさうなり。此劇を見た當時は、大隈さんもその一人と思はれた、加藤弘之さんも引合に出して見た、死んだ田口卯吉先生、島田三郎氏、類は澤山ある。が、今如斯書きつゞけて不圖考へると、之は他の身の上では無い、自分でばかり若いと思つて居ても、時代の目からは大老込の所、夫子自から嘲つてる氣味もある。此人を原作ではローバック・ラムスデンと云つて居る。そこで轉名を大庭蘭洲とする。名も苗字もメチャ、のところが轉作の義になつてゐるのなり。

自分が舞臺で見た大庭君は、二度共ジェームス・ハアンといふ俳優がやつて居た。四角な顔で、鼻の下の長い男と記憶する。自分が脚本に書き入

私が倫敦で見た「人と超人」

れた『トがき』は原作の『トがき』とは聊か違ふ。わざと自分の書入を有難さうに振廻すところが、當人大自慢、ぬけ湯で都々逸の格なり。

冥秃頭、毛は頭の下部したのほうにのみある。古風な鬚髯、黒のフロックコート、あらい鼠織のズボン、薄鼠色の胸あきの広いチヨツキ、その襟は幅廣の折返しになつて居る、チヨツキの釦は貝で、原作の白チヨツキといふのよりは下品だが、昔じみてよい。襟飾は黒地に霞の模様ある結び下げ、カラアは小さいグラツドストリン式、かうなると小辨慶のズボンを穿かせたい様な気がする。黒い紐の鼻眼鏡、蘭草のスリッパアを穿いてゐるのは、如何いふ洒落か誰に聞いても能く分らず。

これが當時の、かき入れなり。その頃はウエスト・エンドの洋服屋の本宅に下宿して居たので、こんな半可な事ほんまもいへたと見ゆ。今日では氣がさして……といふだけ、自分も大庭式になつたのなり。

そこで今度はオクタヴキアスの登場となる。そこではこんな事を

書き入れました。

原作にはオクタヴキアス・ロビンソンとある。之れを近江谷沖太郎と轉名する。原作者の注文によると、幾百の西洋の美男子を解體して、顔の機關を一つ／＼つなぎ合せなければ出来さうも無い人體なれど、自分の見たレウス・カツソンといふ俳優は、原作者の『トがき』ほど御大相な代物では無かつたり。顔のいやに長い處、如何かすると、ハンケチでもいぢくりさうな容體、故齋藤緑雨君を連想したが、歸朝後近頃になつて若い作家の御面相を少々ばかり拜んで見ると、寧ろ其方に此人間の類例多し。『戀のもだえ』をやらうといふ代物、勿論例の憧憬きんけい。但し原作には着附に特別の好みなし、初めに自分が見た時には此人紺セルの背廣なりしが、二度目の時には相手のタンナアさん、紺セルの着付とて縞物であつたかも知れず、くわしい書入れなし。健忘性の拙者。勿論空で記憶などはして居らず。此青年腕に黒い帛びさを捲いて、顔にも喪中らしいベソを搔く。大庭それと

私が倫敦で見た『人と超人』

見ると堪らなく可哀さうな顔をする。「下手な奴だなあ」と自分は思った。がそんな顔をするのは此俳優の地顔だと、それから二三回見た後に分つて見ると、然して拙いとも思はなくなつた。

も一つ序でに主人公のタンナア先生の最初の印象といふやつを御紹介致します。

タンナア先生、卒然鬪を排して入り来る。此男の風采を作者は例のベダンチックな書き方で、滔々數百言を費やして居る。それによると、身體のガツチリとした、髯のある大きな男であるが、まだどつか若々した處がある。一體着物には周到な用意を拂つて居る人間で、此時にはフロックコートを着て居る。辯舌滔々としてまくしかけて喋舌り立てる時、鼻の穴が開いて目がでんぐり返りをうつと云ふ様な事を書いて居る。が、グラヴィール・バアカアが此役をやつた時には、黒のモーニングコートに、鼠

縞のズボン、白のシャツに黒琥珀のタイ、黒の山高帽子、バテント・レーザアの編上靴と云ふ扮装、赤髯に赤髪、目の下の黒子まで、原作者バアナアド・シヨウ先生を其儘生寫しといふ悪洒落をして居て、年頃も原作者の注文よりは、ずつと老けて居た。第一圖はバアカアの素顔、それが第二圖のシヨウの顔に扮装したのであるから、大抵想像がつかう。第一圖よりは、ずつと老けて、第二圖よりは少し若い。かうなつて來ると、原作者數百言のトガキも殆ど無用の長物、役者の方からいふと「トガキとは役者が無視する爲めに、作者によつて作らるゝものなり」といふ定義でもつけなければならぬ事になる。ところが米國の此劇の開山にして泰斗と云はれるロレィヌのと來ると、更に作者を馬鹿にしたものだ。先づ僕が其當時脚本にかき入れて置いた扮装を摘記する。

『鼠霜降のジャケット、チョッキなしの縞のやはらかいシャツ、同じくやはらかい白のカラーに紫のタイを結び下げ、黒の革の時計の紐で、上衣の前

私が倫敦で見た「人と超人」

の隠袋から二インチ半ばかり白のハンケチを見せる。帽子は麥藁靴は赤の編上げ、辯舌甚だ流暢ならず、發音はもとより米國流のどん／＼鼻へ抜ける事、譯者の生れた東北地方の人間の如く、英國貴族の門に生れた人とは、われら外國人の鈍栗眼にすら受取れず。」

先づこんな事で、原作者が見たら忽ち脚本撤回の交渉位は開きさうな遣口だが、原作者は大に納つて、大變褒めて居た。西洋の作者と役者との關係はまづこんなものだ、そこへ行くと或國の西洋翻譯劇などは、原作者に對して此上なき忠實なものである。一字一句もトがきの外に出でずと力めて居る。たゞしトがきの無い處は、同様に何んにも爲ないから、新しい芝居と來ると、どれもこれも皆な座敷、腰かけ劇、見物ばかりがおつ立て尻をして「あゝ悲劇だ！」

こんな事ならいくらでも書けます。先生の御注文通り、どんなにても長く喋舌しゃべれます。が、いくら原作が三十四頁の長序文で有名な此の

「人と超人」だからといつて、私風情の長談義はどなたにも御迷惑でせう。タンナア先生の『革命黨員必携』には、最も耐え難き苦痛は、最も強烈な愉快を長くつゞける事だ」とありますが、尤も強烈につまらないとを長くつゞけるのは、更に耐え難き苦痛に相違ございません。私は近ごろ自分の翻譯の脚本に、馬鹿長い序文をつけて大しくじりをやつた計りでございます。又長い序文を書いて先生まで累を及ぼしては少々御氣の毒に存じます。こゝらで御免を蒙つて置きませう。

東大久保十六番地觀音庵地内

松居駿河町人

大正二年霜月七五三の祝ひ日

私が見て見た『人と超人』

▲此劇(人と超人)は二個の主要なる哲學的根本思想を含有す。第一、生の力(即ち自然)は、一層清高なる人類を産出せんが爲(即ち超人を産出せんが爲)、何よりも先づ恰好の結婚を要望する事。第二、此の人類の結婚を行ふに就いて、女は男よりも一層自覺的の働き手である事。

▲故に此劇に於いては、女は追ふ人で、男は追はれる人である。然るにシヨウは此點に於いて、其の平生の筆の硬味の爲に、即ちローマンスに對する同情の缺乏の爲に、ハンヂキヤツプを附せられて居ると思ふ。

▲超人の母たる可能性を有する者として、アンの言行を許容するならば、シヨウが多年劇評家として攻撃した、あらゆる▲痴話情話をも亦同じく是認せねばならぬ譯である。(G. K. Chesterton.)

大正二年十一月卅日印刷
大正二年十二月四日發行

「大正文庫」第十編
定價金九拾錢

著者

堺 利

發行者

高 島 大 圓
東京市小石川區原町六番地

印刷者

佐 久 間 衡 治
東京市京橋區西橋町廿七番地

印刷所

饒 秀 英 舍
東京市京橋區西橋町廿七番地

不 許
複 製

發 行 所

東京市小石川區原町六番地
振替東京一五六八六
電話番町二六〇八

丙 午 出 版 社



「萬朝報」記者 大住嘯風先生著
現代思想講話
 定價金一圓廿錢
 郵税金八錢

現代人は須く現代の思想に通ぜざるべからず現代の思想に通ぜむにはまづ其の思想の由来せる傳統を究め進んでゼームス、オイケン、ベルグソン等の如き現代思想を代表する大思想家の説くところを知るを要す著者今此等碩學の著作の全體に精緻の研究を加へ深遠なるその根本思想を捉へ來りて明快直截に講話し人をして一讀直に現代思想に通曉せしむると共に又親しく大思想家に接して自己を養ひ人生の意義を了得せしめんとす洵にこれ思想講話に一新生面を開きたるの名著

暮村隱士 久津見藤村先生著
現代八面鋒
 定價金八拾錢
 郵税金八錢

物平を得ざれば則ち鳴る而も著者はたゞ自ら鳴るを以て足れりとせず之を發して八面に當り散し十方に喝破すその鋒先の向ふところ女優あり倫理あり藝者あり教育あり浪花節あり哲學あり活動寫眞あり宗教あり眞にこれ多角多趣味の一大珍書

暮村隱士 久津見藤村先生著
眞人僞人
 定價金壹圓
 郵税金八錢

先生書を著はすこと數次而して發賣禁止の嚴命を蒙ること亦數次聊か疇癢を起して朝野の名士一百餘人を捕へ大にこれに喰つてかゝる眞人はこゝに其面目を揚げ僞人はこゝにその面皮を剥かるその論辛辣その評深刻洵に蜂蟻風を生じて文に聲あるの概あり

堺 利彦先生著
樂天囚人
 定價金六拾錢
 郵税金八錢

此書は狂暴、不平、怨恨、嫉毒、殘忍、無恥、悖逆を以て世に目せらるる社會主義者が人の子として親として夫として友として將た人類の一員として宇宙の一分子として如何なる態度を持するかを其獄中生活に於て率直に露骨に赤裸々に發揮せる者之を一言にすれば社會主義者の安心を語れる者

賣文社長 堺利彦先生著
賣文集
 定價金壹圓
 郵税金八錢

爲顯之飾 著者の友人先賢六十餘名家が著者の人物文章主義、專攻に對する長短階差奇抜痛快の評語 序 賣文社の記、著者自ら其の事業を論ずる 第一編 一、唯物的歴史觀 二、子に對する態度 三、宗教とは何ぞや 四、木下尚江君を評す 第二編 一、暮春の古風 二、予の夢 三、墓地見物 四、寸馬豆人 五、逆徒の死生觀 六、死の趣味 第三編 喜劇「谷川の水」(バーナード・ショー原作) 第四編 一、告白、並如寒村 二、クレンクビニ、大杉榮 三、謀叛人耶蘇、高島素之

堺 利彦先生譯
ルソー 赤裸の人
 定價金九拾錢
 郵税金八錢

佛國の革命はルソーの「民約論」によりて點火せられ日本の教育界はルソーの「エミール」によりて啓發せらるる波瀾重疊神出鬼没の彼が生誕後自ら大膽にこれを告白して餘すところなし今これを譯して彼が眞面目を尊へむとするものは達達能文の堺利彦先生なり一讀してルソー前に立てるの感を起さしむ

カウツキー先生原著
堺利彦先生譯
社會主義倫理學
定價金壹圓
郵税金八錢

哲學界には迷妄にして頑冥なる唯心論が跋扈し文藝界には不徹底にして神秘的なる本能主義が流行し宗教界及び教育界には淺薄にして偽善なる因習道徳が唱導せらるゝ今日此の明晰透徹なる唯物論倫理觀を以て彼の蒙を啓き此の味を照すは譯者が深く痛快とする所なり著者カウツキーは歐洲社會黨中第一の學者を以て目せらるゝの日本人の學界と文壇とは遂に此書を無視すること能はざるべし(譯者)

幸徳秋水が最後の文章
基督抹殺論
定價金七十錢
郵税金八錢

一代の論客として知られたる幸徳秋水も誤つて天地の容れざる大道無道を企て今や遂に斷頭臺上の露と消え去りぬ其鐵窓裡に呻吟せるの間特に此一卷を著す所論痛絶快絶行文悲絶憤絶嗚呼幸徳秋水死に臨みて基督を抹殺し了せむとす抑々何の思ふ所あつて然るか冬く語るに忍びざるなり秋水自ら曰はく「是れ予が最後の文章にして生前の遺稿也」と敢て滿天下の憎讟を冀ふ

文學士 渡邊又次郎先生著
最新論理學
定價金一圓廿錢
郵税金拾貳錢

本書は斯學の泰斗たる著者が學界の缺陷を補はん爲めに特に選述せる所に保り所論の明晰にして内容の整頓せる簡潔なる叙述の中に學士の卓見を洩したる所他に比を見ざる老熟の大家なり又欄外に重要な題目を掲げ卷末に英語と對照せる詳細の索引を附したるが如き讀者の便益に過ぐるものなかるべし

加藤 嘯堂先生著
筆と舌
定價金七十錢
郵税金八錢

天下の大雄辯家大文章家たる著者が筆舌生活二十年の經驗を基として實説と文章との秘訣を語り模範を示したる名著にして殊にその生活實談は正に現代の青年を奮起せしむるに足る大文字なり

村上 博士序
藤井瑞枝女史著
亂れ雲
定價金八十錢
郵税金八錢

才華明治の清少納言俠氣女次郎長の稱ある女史が舊組織舊道徳に對する呪咀叛逆の聲を擧げ

「無我愛」首唱者
伊藤 證信先生著
新氣運
定價金八十錢
郵税金八錢

斷然傳習と教權の束縛の東縛より脱却して世の罵詈喧笑輕侮憎惡の中に立ち應面なく忌憚なく無我の愛の根本眞理を吐露して以て混沌たる現代思想界に一道の新氣運を誘導せむと試みたるもの!

三宅雪嶺先生序
高島米峯先生著
廣長舌
定價金七十錢
郵税金八錢

加藤啗堂先生曰はく「米峯今胸中鬱勃の氣を呵して『廣長舌』一篇を著す其の言ふ所は世事に疎なる學者輩の企だて及ばざる所にして其の論ずる所は肉を刺し骨を通して當世人士の肺腑を刺る洵にこれ堂々當世の大字」と

加藤弘之先生序
高島米峯先生著
惡戰
定價金八十錢
郵税金八錢

著者曰はく「これ僕が半生の惡戰史なり父なく母なく學なく識なく疎に加ふるに資金なく後援なき裸一貫の青年が如何にしてこの生活難の世に處し來りたるかを語るは又以て現代青年諸君が新運命の開拓に資する處なきを保せざるべし」と

島田三郎先生序
高島米峯先生著
理想的商業
定價金二十五錢
郵税金四錢

賣ると買ふとは對等なりお客威張つて商人屁こ垂れること甚だ道理なしそれ賣るに法あり買ふに道ありこの法を説きこの道を教へ以てお客様といふものゝ立場を明にし以て商人といふものゝ位置を高め而して買ふものにはうんと買へと勧め賣るものにはしこたま賣れと告ぐるものは即ちこの書なり

前外務大臣 伯爵 林董閣下序
東北大學 澤柳政太郎先生序
學總長 千河岸貫一先生著
修養史譚
定價金壹圓
郵税金八錢

林伯爵曰はく「此の書を續くに古今東西の史乘より異世同轍の事實二百對を擧げたる者にして教師これを用ゐば以て講話の資を得べく父母これを讀まば以て庭訓の料たらむ」と

前外務大臣 伯爵 林董閣下纂譯
修養の模範
定價金七拾錢
郵税金八錢

家庭では父母が子供にする話の種に困り學校では教師が生徒にする話材の陳腐なのに窮し寺院や教會では辯士が引用する美譚の乏しいのに窮り而して青年は讀んで自修の資とするに足る程の書籍の少ないのを歎いて居る譯者これを愛へ書を読む毎に精神修養の模範とするに足るやうな美談逸話を翻譯摘録して遂にこの書を成すに至つたのである弊社今ことに世の宗教家教育家及び父兄青年諸君の前に此の書の發行を報告することとなつたのは實に無上の光榮である

文學博士 村上專精先生著
通俗修養論
定價金壹圓
郵税金八錢

古學實踐の芳蘭を辿り前賢研究の結果を收め苟も規箴とするに足るべき名論金言は悉くこれを援引して依て以て極めて平易に修養の理論を説明し苟も模範とするに足るべき善行美譚は悉くこれを蒐録して依つて以て極めて明快に修養の方法を叙述す恐らくはこれ斯界未だあらざる精到完備の修養書たらむなり

文學博士 村上專精先生著
改訂 增補 自 信 錄

定價金 六拾錢
郵税金 八錢

これ博士の著にして又實に博士が信仰の告白なり言々己の實驗を語り句々心の奥底を披露すまづ筆を「人生の目的」に起して「目的の成否」を明にし「實在と我れ」「佛陀と我れ」の關係より「自力と他力」の異同に及びて之を結ぶ五章廿七節説いて至らざるなく述べて盡さざるなし進歩せる傳教學者の見解は此の書によつて窺ふべく教壇なる傳教信者の態度は此書によつて知るを得べし

文學博士 村上專精先生著
誠のしるべ

定價金 四拾錢
郵税金 八錢

誠は實に人生の基礎をなすものにして政治も實業も宗教も道徳も教育も凡て此の根底の上に立たざるべからず今や村上先生古今東西の事例を引いてその然る所以を詳記せらる荷も誠を得得して眞の人たらんと欲するものは此書を読み

文學博士 村上專精先生著
女性 訓

定價金 四十錢
郵税金 六錢

本書の内容は天職中庸質素謙節操の五訓を以て女子座右の箴言となすにあり多年女子教育に經驗を重ねたる村上博士はよく女性の缺點を摸み來りて之を訓誡すその親切實に至れり盡せり凡そ世の淑女たらむと欲する者は必ず其の座右を離すべからざる珍書なり

スタンフオールド大學總長
ジョルダン博士原著
マスタート、オブ、アーツ
中村 平先生譯
人物の修養

定價金 五十錢
郵税金 八錢

澤柳前文部次官特に長文の序を草す其の一節に曰く、「ジョルダン博士は當今世界有数の學者にして北米第一流の人物なり且外國人中最も深厚なる同情を我日本及日本人に寄せらるゝ紳士なり我國人がその所説その意見を知らむと欲するの情並に之を知ること依て利すること尠からざるは言を待たず：我日本人は本書に對し尊敬と同情とを表し以て博士に報ゆるところあらんことを希望す」と

ウキリヤム、ハイド氏原著
鈴木券太郎先生譯
處世 自己 測量

定價金 五十錢
郵税金 八錢

これ米國に於ける最新の處世術なり最新の修養法なり而して又實に最新の記術法に成れる名著なり今移して以てこれを我が現代の社會に薦めむとするもの他なし吾人が惡徳邪僻の癡朴人格完成の砥礪立身處生の嚮導社會道徳の軌範として眞に得難き大教訓たるを以てなり來れ青年紳等がこの生活難の世に處して新しき運命の秘庫を開くべき鍵はこゝにあり

黒岩 周 六先生講演
人生 問題

定價金 七拾錢
郵税金 八錢

人生とは何ぞや是れ千古の疑問なり哲人之を説き碩學之を論じて而して懷疑の雲益々密に苦悶の人愈々多からむとす然るに現代思想界の泰斗黒岩先生自ら人生問題に遂着して疑問の源泉を探り大に其深處を得て茲に此書あり叙ぶる所神の有無に始まり人生の悲劇榮耀に終る眞に天籟の妙音なり世の悶ある人疑ある人速に來つて此福音に接せよ庶幾くは平穩と満足と活力とを得て温く且つ光ある人生に觸着することを得ん

東北大學總長
澤柳政太郎先生著
退耕錄
定價金壹圓
郵税金八錢

著者の序文に曰はく「官遊十數年其間人よりも多く云ひ多く論じたるも尙ほ腹ふくるゝ心地を忍んで言はざりし者多し」と知るべし本書は先生が實歷上百般の問題に逢着して滿腔の所感を披瀝したるものなることを諷刺あり教訓あり感慨あり痛罵あり氣焔あり理窟あり警拔にして透徹せる觀察あり大膽にして穩健なる斷案あり言はんと欲する所は言ひ盡くして毫も時勢に阿らず誠に愛國醫世の大文字なり經世家教育家宗教家及び現代の青年諸君は須く一讀せざるべからず

フユヒチル先生原著
文學士 平田元吉先生譯
死後の生活
定價金五拾錢
郵税金八錢

本書は現世の事實を基とし最高の詩的想像を參へ或は歸納的に或は類比的に未來生活を縱横に叙述したる詩と科學との靈妙なる融合にして此書によれば千里眼幽靈等の不可思議なる現象も容易に解釋することを得故に本書は親愛者を失ひし人死生の疑惑に苦しめる者の無二の慰藉となり一般の讀者に津々たる興味を配ち文學者研究者に豊富なる暗示刺戟を與ふるや疑ふ可からず

ペーリクマン先生原著
杉村縱横先生譯補
増補強 **肺術**
定價金四十錢
郵税金四錢

肺病を恐るゝものは讀め肺病に罹れるものは讀め歐米に於ける最新式の體力養生法を讀め此書に六の特色あり 第一、時間を要せざること 第二、費用を要せざること 第三、場所を要せざること 第四、努力を要せざること 第五、言文一致なること 第六、總ふり假名付なること 故に男子は勿論婦人小兒と雖も容易に實行し而して確實に其功を收め得べし

文學博士 井上圓了先生著
南半球五萬哩
定價金九十錢
郵税金八錢

南半球を一周し赤道を四過し濠洲南阿南米の各洲は勿論北は北極海より南はマゼラン海峡まで行程實に五萬哩の大旅行を試みて其の間の山容水態國情民俗の珍奇怪異を記して遺憾なし繪圖五十餘上更に花を添ふ

文學博士 井上圓了先生著
活佛教
定價金壹圓拾錢
郵税金八錢

明治の宗教界思想界を震撼せしめたりし「佛教活論」は完成す僧侶の活躍寺院の興隆期して待つべし眞にこれ死佛教をして活佛教たらしむるの福音

帝國大學教授
文學博士 高楠順次郎先生著
國民と宗教
定價金七十錢
郵税金八錢

本書は國民と宗教との關係を述べたる論文に非ずして著者が該博なる學識と深厚なる同情とを傾注して日本人が國民的生活の理想と宗教的生活の理想とを詳説せられたる新著也苟も日本の國民たる者日本の宗教の理想なる者は一讀せざるべからざる佳書たるのみならず行文は通俗平明なる語體なれば又以て演説講話の好模範たるべし◎附録として研究上修養上極めて重要な論文數種を收む悉く學界の珍

文學博士松本文三郎先生
文學士羽溪了諦先生著

定價金壹圓
郵税金八錢

本書筆を釋尊以前の婆羅門教の理想に起して釋尊當時の印度諸學派の狀態より進んで釋尊の根本思想に説き及び以て釋尊の世界觀人生觀生死問題の解決及解脱の方法を明にし更に釋尊の涅槃に移りこゝに著者の全力を傾倒して詳に涅槃の意義を解し具に東西學者の謬論を破る誠ニ教界及學界に於ける尊重すべき一大新研究なりと稱すべし

京都帝國大學文部科大學長
文學博士松本文三郎先生著

定價金壹圓
郵税金八錢

宗教學上殊に佛敎史上理論實際の兩方面に涉り極めて重要なる地歩を占むるものは「淨土の思想」なり而して其半面は「阿彌陀淨土」の闡明によりて先輝を放つるも其他の半面は「彌勒淨土」の埋没によりて全然暗黒に歸すこれ佛敎史上の一大缺點にして又實に佛敎界の一大根柢ならずや松本博士多年の蘊蓄を傾けその專攻する學科の立脚地より「彌勒淨土」の由來淵源を詳論し博士の舊著「極樂淨土」と併せて茲に佛敎の淨土思想研究は完璧を成せり何人か又此の新研究を味はすして悉に佛敎の淨土思想を談せんとするものぞ

ボーレル、ケーラス先生著
學習院教授 鈴木大拙先生譯

定價金三十五錢
郵税金六錢

阿彌陀佛とは何ぞや是れ佛敎の根本問題也ケーラス博士その彩筆を揮ひ殆ど小説的結構を以て通俗に之が解釋を試む宜なりその歐米讀書界に好評噴々たることや弊社に十年博士と居を同じうし最も博士と親善なる大拙先生を煩はして此和譯を得たり豈啻に佛の有無に惑ひ心の不安に關する人のみこれを讀むべしと言はむや

東京帝國大學講師
文學士 常盤大定先生著

定價金七十錢
郵税金八錢

佛傳の大部を占むるものは神秘なる傳説なり世人或は直にこれを抹殺して顧みざるべしと雖是等の傳説が古來深く佛徒の頭腦を支配せるより見ればその裏に何等かの意義を有せざるはなかるべし此著は主として是等の傳説の起原を尋ね意義を究め南北兩傳大小兩系の相違を比較對照し以て此の千古の大聖釋迦牟尼佛の眞面目を傳へむとするに在り

文學博士 遠藤隆吉先生著

定價金壹圓四十錢
郵税金十二錢

その涉獵極めて廣汎にその材料極めて豊富にその觀察極めて銳利にその論斷極めて適確なるは勿論殊に各編各章到處に博士獨特の奇想と先哲未言の結論とに接するを得るは洵に本書の特色として天下に誇稱するに足るところ

高等師範學校講師
耳理章三郎先生著

定價金一圓五十錢
郵税金十二錢

哲人王陽明もまた凡人吾等の如く事毎に理想と現實との衝突に逢うて悲觀し懊惱したりし也しかも能く自ら百般の問題を解決し盡くして遂に悟微の妙境に入る豈偉ならずや本書はこの王陽明の人格を主題として其の實生活と學説とを併叙し依つて以て凡人が如何にして哲人たるを得しかの歷程を明にし吾等が修養の鏡としたる者なり

東洋大學講師
 增補 聖德太子傳
 定價金五十五錢
 郵税金八錢

佛教史家として夙に名ある境野先生が其の熟練なる史眼と圓熟せる文才とを傾倒して日本文明の開拓者日本佛教の教主たる聖德太子の事蹟を叙述し併て當時社會の政教習俗の特色を發揮したる名著にして文章の明快論斷の適確實に他に其の匹を見ざる所

大内青磐先生序
 高島米峰先生著
 一休和尚傳
 定價金九十錢
 郵税金八錢

元日に懶懶を擬題はして人の度胸を抜き末期に莢を賭つて梵天に捧けた彼一休後小松帝の皇子として九重雲深きところに榮華の夢を見やうともせず一簣一笠ただ平民的飲化のために一生を送つた彼一休痴か狂かかはた一大偉人か彼が眞面目そは本書の上に躍動して居る

曹洞宗大學教授
 忽滑谷快天先生著
 達磨と陽明
 定價金七十五錢
 郵税金八錢

本書は王禪二學を比較對論して禪學の精髓を發揮すると同時に王學の眼目を啓開して餘蘊なく進徳の工夫修養の方法爲學の用心精神練磨人格養成等一として備はらざるなし眞にこれ精神界の指南針にして亦實踐道徳の指導者たり

明揚起元評註
 加藤咄堂先生和譯
 和譯維摩經評註
 定價金七十錢
 郵税金八錢

本書は明の揚起元が評を加へ註を施して斯經の哲理と文學とを闡明したるものを更に加藤咄堂先生が平明暢達の文を以て之を和譯し佛誦を附して通讀會解に便ならしめしもの世の佛を學び禪を談せむと欲する者には勿論講習本として亦最も適當なり

加藤咄堂先生著
 原人論講話
 定價金六十錢
 郵税金八錢

佛教典籍多しと雖も之れを備道二教の教義と比較して佛の巋然一頭地を抜く所以を明にせるもの此の原人論に過ぎたるはなし、著者今獨得なる通俗平易の筆を以て叮嚀懇切に此の原人論を講述し且つ近代思想を以て批評を加へ龍頭には添ふるに古人の解説を以てしたれば佛教の大意と人生問題の解決とは此の書によりて知ることを得べし

加藤咄堂先生著
 通俗講話の理方法
 定價金九十錢
 郵税金八錢

通俗教育の必要日に過りてしかも通俗に講話し得べき人幾人かある本書は多年の研究と豊富なる経験とを有する加藤先生が如何にせば通俗に講話して聴者を感じせしめ得べきかの理論と方法とを極めて親切に解説し多くの例話を擧げてその使用法を示されたものなれば教化の秘訣雄辯の奥義講話の資料收めて一巻の中に在り苟も講壇に立たむと欲する人一人たび本書を讀みかか忽にして一箇理想的の通俗講話者たるを得む

東洋大學講師
清 潭先生著
寒山詩新釋
定價金五十錢
郵税金八錢

是れ佛か是れ仙か是れ狂漢か得て解すべからざるものは寒山詩なり是れ韻語か是れ詩語か是れ佛語か得て解すべからざるものは寒山詩なり宜なり千古の疑問牢固として拔げざることや著者精深雄大の學と才とを以て一筆句斷彼が面目ここに於てか露出す寒山詩禪を知らんと欲するものは須らく此書を以て指南車となすべし

東洋大學講師
清 潭先生著
和漢詩新釋
定價金五十錢
郵税金六錢

本書、漢は唐宋元明清五朝の高僧に涉たり、和は唐以後絶海巖堂に至る大凡七十餘人の名詩を新釋したるものなり、其詩雄渾なるもの高古なるもの典雅なるもの勁麗なるもの婉麗なるもの清秀なるもの幽淡なるもの之れに悉く字解と讀法と評論とを付し平易を旨として深切を極む和漢高僧詩篇を釋義して此の如きもの恐くは曠前なるべし

慶應義塾大學教授
忽谷谷快天先生評釋
和名士參禪集
定價金五十錢
郵税金八錢

本書は日本に於ては後醍醐天皇花園天皇龜山天皇の聖帝より北條時頼北條時宗武田信玄上杉謙信前田利家楠正成等古今の名臣支那に於ては唐の宣宗皇帝宋の太宗皇帝等の諸帝より黄山谷蘇東坡白樂天張無盡張翥等の碩學が參禪せる佳話を蒐め且和漢禪匠に關する逸話美談を合せて之に批評を加へ學道の正路を示し在家參禪の資糧に供する者にして讀者をして坐ながら古今の鴻儒碩學と禪を商量し名僧大徳の紺鏡に接するを得しむ

マクス、ミュラー博士原著
文學士 清水友次郎先生譯
宗教學綱要
定價金五十五錢
郵税金八錢

清水學士佛敎大學に教授として宗教學を講ずるや近代稀有の宗教學者マクス、ミュラー博士の原著を講本とし隨つて譯し隨つて教ふ今これを補訂潤飾して以て世に公にす蓋し邦文の宗教學書としては唯一無二の良書なり

第三高等學校教授
文學士 野々村直太郎先生著
宗教と倫理
定價金五十錢
郵税金八錢

正にこれ新宗教論なり新道徳論なり而してまた實に入世問題最後の解決書なり世の靈と肉との饑渴に悩める者知と信との衝突に苦しめるもの若しくは夫の舊宗教と舊道徳とに厭けるものは速に來つてこゝに無上の安樂地を見出さ。附録には二宮尊徳翁の宗教論を評す

眞宗補敎 北條蓮聲先生著
眞宗の敎義
定價金十二錢
郵税金二錢

眞宗は實に日本佛敎の精華にして又實に日本佛敎の最大勢力なり本書は博識篤學を以て聞えたる北條翁が多年の遺著を傾けて宗祖親鸞上人を中核とし其師法然上人と其資蓮如上人との敎義を信仰上より研究したる結果を組織的に叙述したる者なり他方敎の秘奥を探り本願寺の盛なる所以を知らむとする者の必讀を冀ふ

ア、エフ、ステンツラー先生原著
 エル、ピツシエンル先生増訂
 ドクトル、フイロソフイニ
梵語入門
 萩原雲來先生譯補
 定價金壹圓
 郵税金八錢

一部人士の梵語を學ぶ者あるも彼等は威な歐語の梵文典を使用すされど
 歐語梵文典を用ゐんは第一歐語を學はざる可からざる不便あり第二價格
 低廉ならず以上二種の缺點を補ひ梵文典に指を染むるの初歩たらしめむ
 がために創めて本書を公にす自今以後苟も英字母二十六を讀み得る人は
 備少なる代價を拂つて悉く梵語を學ぶを得べく梵本を讀むを得べし

文學博士高橋順次郎先生閱
 曹洞宗大學教授
 立花俊道先生著
巴利語文典
 定價金一圓
 郵税金八錢

著者南天楞伽島に入りスマンガラ僧正の會下において巴利語を修むるこ
 と多年、其平生手記する所と迦旃延以下原語の文典、歐洲人の手に成れ
 る巴梵兩語の語典とを併せ參考し以て本書を成すに至れり、叙述の前後
 には多大の注意を拂ひて簡より繁に入り、易より難に進むの方法に従ひ
 たれば初學者にして巴利語並に梵語を修めんとするものには良好の伴侶
 たるべし

慈雲尊者眞筆
 高橋順次郎先生序
 阿彌陀佛先生著
悉曇阿彌陀經
 定價金壹圓
 郵税金八錢

悉曇阿彌陀經とは古來日本に傳はりたる梵文阿彌陀經即ち極樂莊嚴大乘
 經なり。特に悉曇と冠語せしは新體梵字に簡げんが爲なり。梵文に加ふ
 るに漢字羅馬字書を附し脚注には馬博士の訂正本との異同をもあげ終り
 に訂正本、辭書、唐秦二譯を掲げたり學者此の書によらば悉曇學の一端
 を窺ふに易からん

平子鐸嶺先生遺著
補校法王帝說證註
 正價金一圓
 郵税金八錢

「上宮聖德法王帝說」はその紀事切實その文詞醇古多く寧樂已往の記録を
 取つて正史の闕を補ひ誠に史家必讀の書たること今こゝに贅するを須
 りずして狩谷棧嶺先生の「證註」に至つては詳説を折衷し正誤を辨別して
 先人未發の見解甚だ少からざるは史家の夙に嘆服するところしかも尙多
 少の遺漏あるを免れざるなり然るに我が平子鐸嶺先生博覽強記にして史
 眼犀利棧嶺先生の未だ見ざるを見未だ言はざるを言ひ誤れるを訂し足ら
 ざるを補うに錦上更に花を添ふ敢て之を史家と佛家とに薦むる所以なり

文學博士村上專精先生編
科註原人論
 定價金十二錢 郵税金二錢
科註大乘起信論
 定價金十六錢 郵税金二錢

この二書は共に筆記書入れ等に便せんがため本文の上下に空白を存し置
 きたれば學校の教科書學會の講本として最も適當なり

高島米峰先生著
 學生參考
東洋史
 定價金十三錢
 郵税金二錢

著者曰はく「形に於ては恐らく既刊東洋史中の最も小なるものたるべか
 らむも學生を資くる點に於ては或は最も大なるものあるべきを信じて疑
 はざるなり」と

文學博士 三宅雪嶺先生著
偉人の跡
 定價金壹圓
 郵税金八錢

古今東西の偉人数十名を捕へ其の時代を語り其の性格を論じ其の功過を明にす觀察審裁にして行文微妙今の偉人の眼に映じたる古の偉人の眞面目は躍如として茲に活動す人若し偉人とは如何なる者か偉人は如何にして修養したるか偉人は如何なる事業を爲せしか偉人は死後に何を遺せしか社會は如何に偉人の死を觀しかを知らむと欲せば盡くは此の偉人の偉著に問へ

文學博士 三宅雪嶺先生著
小泡十種
 定價金四十五錢
 郵税金八錢

博士の學殖富贍に博士の見識卓越に博士の文章超凡なるを世既に定評あり今此學と識と文とを傾倒して此著を作す政治を論じ宗教を説き文學を語り人物を評す其の筆の向ふところ流れては清渺盡きき大河となり飲じては繽紛限りなき飛沫となる小泡が激濤か蓋し近代稀有の快著也

文學博士 三宅雪嶺先生著
明治思想小史
 定價金五十錢
 郵税金六錢

日本の大思想家三宅雪嶺先生今や思想の最高壇に立つて明治思想の變遷を語るまづ明治以前に思想界に筆を起して維新の思想に入り進んで最近四十五年間の政治經濟學術道德宗教教育社會等の各方面に亘り深刻の觀察を逞しうして剴切の結論に到る今や大正維新の風雲に際會せる日本國民は明治年間國運の大發展が果して如何なる思想の産物なりしかを知悉して依て以て第二の維新を大成せざるべからず果して然らば此書これ眞に大正國民必讀の書

文學士 沼波蓮音先生著
此一筋
 定價七十錢
 郵税金八錢

現時俳壇の飛將軍、沼波先生の新著なり。先生曰はく、「この書に、大知識大感想ありて、天下の士、必ず一本を求めよとは言はず。たゞ書中、或物あつて存す。この或物は、或人には輕んぜられんも、或人にはゾクゾクと嬉しがらるゝなり。其の嬉しがりそうなる方のみ、これを信む。」と本屋曰はく、「輕んずるも可、應しがらるも不可なし。たゞ買ふ人の多からむことを、切望に堪へず。」と

新佛教徒同志會編
來世之有無
 定價七十錢
 郵税金八錢

吾等の死後はどうなるか地獄があるか極樂があるか抑々又吾等の靈は滅するの滅しないのか元來吾等に靈魂などいふものがあるので無いか凡そ此の如きの難問題に關し現代各方面の名士二百數十人の解答を得てこれを滿載したのが本書である古來の大疑問も本書一たび出づるに及んで忽ち雲散霧消するであらう

高島米峰先生著
現代青年論
 定價十五錢
 郵税金二錢

本書は著者が某會社の青年に向つて講演せるもの、筆記にして各種青年會などの施本として最も適當なり内容目次左の如し
 一、青年の力―二、今の青年は依頼心が強い―三、今の青年には氣概がない―四、今の青年は成功を急ぐ―五、今の青年は一事に精しくなくて多岐に勞する―六、今の青年は思想が羸弱である―七、今の青年は信仰が乏しい―八、今の青年は同情が乏しい

大内青嶺先生著
結城素明齋伯書
禪の極致
定價六十錢
郵税八錢

不立文字の教理も、文字に依らざれば知ること能はず。以心傳心の妙諦も、言語を離れては傳ふること能はず。但借しむ、古來禪を説くもの、徒に難解の語句を弄して、人をして愈々出て、眞に現代の達人たり。殊に先生、大内先生學深く徳高く、教禪二面に於て、眞に現代の達人たり。殊に先生、平談俗話を以て、幽玄の理を説き、深遠の法を語ることを、殆ど天下獨歩、而して本書は即ち先生得意の作。禪の極意、正にこれに盡きたりと稱するも、敢て溢美にあらざるなり。附録「五位頌講話」また先生獨創の見識を以て、縦横に講解す、蓋近來の大文字なり。

二四

黒岩周六先生著
予が婦人觀
定價六十錢
郵税八錢

進歩的にして却て稍保守的の檢束あり古きが如くして實は極めて新しき趣味を有する黒岩先生の婦人觀はトルストイ的の絶對貞操觀に配合するに經濟的獨立の實際問題を以てし種々様々の方面よりして斷案の片鱗を示しつゝ遂に人をして成程と承服せしむる老巧親切の文を爲す眞に現今婦人問題の燈明臺也世の年頃の娘その父母及び女子教育家の精讀を冀ふ

記者壹月、晴堂、我觀、米峰
月刊 雜誌
新佛教
一冊十六錢
半年分一圓十錢
一年分二圓

「新佛教」は自由討究傳説排斥の大義に基き吾人の全精神を満足しつべき新信仰を鼓吹し今日の時世に適應すべき新道徳を扶植せむとするものなり
「新佛教」は光明を求め大道を傳ふ法を賣り道を囁くものにあらず
「新佛教」は自主獨立能く言ふべきを言ひ語るべきを語る他の保護の下に踴躍して言ふべきを言ひ得ず語るべからざるを語るが如き者にあらず

釋清潭先生著
狐禪狸詩
定價六十錢
郵税八錢

今世何ぞ夫れ狐禪狸詩の多きや著者大獅子吼猛然として起ち狐禪の窠窟詩の窟一蹶して之を壞る其の毫端に上りしもの實に此の一書なり今や裝成りて人間に横行す世の狐禪狸詩に太平なる者は讀むも詮なしとゞそれ狐禪狸詩に不平なる者のみこれを讀むべし作詩壇上別に一新生面を開き人をして詩禪一味の妙境界に遊ばしむ

釋清潭先生主筆
月刊 雜誌
漢詩
一冊五十錢
一年分一圓五十錢

釋清潭先生を中心とせる漢詩團淡社の機關雜誌にして毎號「作詩法講話」「三體詩講話」「陶淵明集講話」及び社友の作品を掲載す
別に漢詩漢文の添削代作等の規定あり切手五錢送付せらるれば規則掲載の「漢詩」一部贈呈す

土屋鳳洲先生著
晚晴樓文鈔
定價八十五錢
郵税八錢

本書は一代の鴻儒文壇の巨匠たる土屋弘先生の文集にして表あり説あり辨あり序あり記あり碑あり傳あり贊銘あり題跋あり凡そ漢文の諸體備はらずといふことなし苟も漢文を學ばむと欲するものこれを模範とせば又良師なきを憂ふるを須るざるなり殊に明治時代の碩學文豪辭を極めて各篇に讚を加ふ卒然巻を開けば天下の文星一堂に會して道を談じ文を論ずるの偉觀を成す綠陰深處にこれを緝かば涼風自ら起つて神氣清爽を覺えむ

二五

村上專精先生序
高島米峯先生著
噴火口
定價八十錢
郵税八錢

著者心内に鬱積する熱火今や轟然として爆發しこゝに礫となり砂となり灰となりて四方に飛散す之を慘狀と言ふべきか之を偉觀と稱すべきか著者自らこれ知らずたゞ著者はその舊著『廣長舌』『惡戰』等に比し來つて本書の愚論惡文更に一段の進境あるを確信するのみ

文學博士村上專精先生主筆

月刊 **人道講話**

一冊 七錢五厘
一年分八十二錢

記者 松本博士、内藤博士、新村博士、上田博士、小川博士

月刊 **藝文**

一冊 廿二錢
半年分一圓廿錢
一年分二圓卅錢

『人道講話』は村上先生の人道講話を連載するもの也

『人道講話』は教育宗教道德の三面を有す

『人道講話』は精神の涵養を以て教育の本領とす

『人道講話』は人道の實踐を以て宗教の要務とす

『人道講話』は父母の孝養を以て道德の大本とす

『藝文』は京都帝國大學教授及び其他學者の研究創作を發表する機關雜誌也

『藝文』は東西兩洋の學術文藝に對し嚴密深刻の批判を下さむとする者也

『藝文』は關西思想界の中心として兼て關東の思想界を風靡せむとする者也

『東京朝日』記者
杉村楚人冠先生新著
ひとみの旅
定價金六十錢
郵税金八錢

長い足、鋭い眼、明な頭、太いペン、而して此書成る。しかも山水の景を描かず、風月の榮を語らず、専ら現代を寫し、人間を論ず。曾て、洛陽の紙價を貴からしめたる『大英遊記』以來の名文にして、又曾て、發賣禁止の嚴命を蒙りたる『七花八裂』以來の奇著なり。

加藤咄堂先生新著
書窓車窓
定價金六十錢
郵税金八錢

天地の秘奥を探り、人心の機微を明にす、乃ちこゝに天籟あり、地籟あり、人籟あり。これによつて世界の知識を求むべく、これによつて古今の德澤に浴すべし。内に在りては書窓の良師、外に出でては車窓の善友、一巻の書また高貴なるかな。

學習院教授鈴木大拙先生新著
帝國大學講師
スエデンボルグ
定價金五十錢
郵税金八錢

神學界の革命家、天界地獄の通歴者、學界の偉人、神秘界の大王、古今獨歩の千里眼、精力無比の學者、明敏透徹の科學者、世俗脫塵の高士、之を一身に集めたるをスエデンボルグとなす。吾國今や宗教思想界の風色漸くまさに急ならんとす、精神を養はんとするもの、時世を變ふるもの、必や此人を知らざるべからず。これ此著成る所以。

エト2714

著譯生先彦利堺

樂天囚人

定價六拾錢
稅八錢

賣文集

定價八壹錢
稅八錢

自^ル傳^レ赤裸の人

[製特]
定價八壹錢
稅八錢

社會主義倫理學

定價八壹錢
稅八錢

終

